

中国語テンスとアスペクト概観

Overview of Tense and Aspect in Chinese

劉 琛琛

Liu Chenchen

1. はじめに

中国語は孤立語であり、テンスとアスペクト表現は膠着語である日本語、または屈折語であるヨーロッパ言語と多くの相違点が存在する。特に、テンスとアスペクト表現に関して固有の特異性を有するため、テンスとアスペクト表現は中国語文法において最も複雑な問題の一つである。本稿では中国語のテンスとアスペクト表現について概観していくことにする。

2. 中国語のテンス表現

『言語学大辞典』によると、テンスは時制、時称ともいい、「時の表示に関するものであるが、いろいろな時間が考えられる」。「まず、物理的時間である。この時間は等質であり、無限であり、かつ随意に分割できる線的連続体であって、他のすべての時間の基礎になるが、内容は空虚である。意識としては、この線の連続体の中で、現在を起点とし、それ以前を過去、それ以後を未来とする、過去・現在・未来の時間の軸を設定する」。発話時との関連で文の表示する時間の相対的位置づけをカテゴライズする仕組みと考えられる。これに対し、工藤真由美（1982）によると、日本語のテンスについて、「現代日本語においては、文法的・義務的カテゴリーとしてのテンスと、語彙的・任意的なものとしての時間副詞が存在している。そして表現内容面では、発話時を基準軸とする〈絶対的テンポラリティー (absolute time reference)〉と、出来事時を基準軸とする〈相対的テンポラリティー (relative time reference)〉とがある。」と述べている。更に、工藤(1982)は次のことも述べている。

文法的テンスにおいては、形式的には、絶対的テンス形式と相対的テンス形式は分化していず、終止の位置では、発話時を基準軸とするダイクティック¹⁾な絶対的テンス対立となり、非終止の位置では、出来事時を基準軸とする相対的テンス対立となる。……

一方、語彙的な時間副詞においては、発話時を基準軸とする絶対的＝ダイクティックなもの、出来事時＝発話の内容時を基準軸とする相対的なものと形式上、分化＝対立している。

つまり、日本語の場合、テンスには絶対的テンスと相対的テンスとがある。同じことは中国語でも見られる。例えば、次の例文を参照されたい。

(1) a. (今) 家にいる。(絶対的テンスの現在)

b. xiànzài wǒ zài jiā
(現在) 我在家。

(2) a. (先) 家にいた。(絶対的テンスの過去)

b. gāngcái wǒ zài jiā
(刚才) 我在家。

(3) a. (この後) 家にいる。(絶対的テンスの未来)

b. děnghuì wǒ zài jiā
(等会) 我在家。

(4) a. 彼が電話してくれたことを花子に言った。(相対的テンスの現在)

b. gēnhuāzǐ shuō le tā gěi wǒ dǎ le diàn huà de shì
跟花子说了他给我打了电话的事。

(5) a. 彼が電話してくれたことを花子に言わないでね。(相対的テンスの過去)

b. bié gēnhuāzǐ shuō tā gěi wǒ dǎ le diàn huà de shì o
别跟花子说他给我打了电话的事哦。

(6) a. 明日彼と映画を見ることを花子に言わないでね。(相対的テンスの未来)

b. bié gēnhuāzǐ shuō wǒ míng tiān yào gēn tā qù kàn diàn yǐng de shì o
别跟花子说我明天要跟他去看电影的事哦。

日本語の場合、絶対的テンスであっても、相対的テンスであっても、時間副詞が生じないままで動詞の語尾変化でテンスが表せる。日本語では状態動詞の現在形と未来形が同じ形を取るため、現在テンスと未来テンスを表す時に時間副詞が必要となる場合がある。しかし、中国語は動詞の語尾変化がない言語であるため、テンスを表すのに時間副詞に頼る以外に、明らかに未来の行為にのみ使われる助動詞「会」「要」、過去の行為にのみ使われる経験を表す助詞「过」など品詞の語彙との構文に頼る。したがって、中国語は「(文法化された) テンスのない言語」とも呼ばれている。

要するに、中国語のテンス表現を考察する際に、時間副詞、または未来テンスと過去テンスのみに使われる助動詞、助詞などが対象となる。中国語のテンス表現に使われる時間副詞などは筆者の調査によれば、表1のようになる。

	絶対的テンス		相対的テンス	
	時間副詞	助動詞、 助詞など	時間副詞	助動詞、 助詞
過去	昨天、上周、上个月、 刚才、去年、上次、 那一次、前段时间、 以前、过去…	已经、过、 曾经、想 当初…	(絶対テンスに使え るもの以外) 之前、此 前、那个时候…	已经、 过、曾 经、想当 初…
現在	现在、目前、眼下…	正	现在、目前、眼下…	正
未来	明天、下周、下个月、 等会、明年、下次、 过段时间、以后、来 年…	会、要、 就要、即 将、将要、 快…	(絶対テンスに使え るもの以外) 之后、此 后、那个时候…	会、要、 就要、即 将、将 要、快…

表 1

中国語は文法化されたテンスのない言語であるため、テンスの表現が時間副詞や助動詞などに頼ることが多いが、次の例文のように、時間副詞や助動詞が現れない時もある。

(7) ^{wǒqù}我去。

行く。

(8) ^{tā lái}他来。

彼来る。

(9) ^{tiān lěng}天冷!

寒い(よ)。

例文(7)～(9)は基本的に会話文であり、答え(例文(7)と(8))又は注意の喚起(例文(9))などの文に使われる。つまり、時間表現などをはっきり言わなくても相手が

分かる場合に使われる表現である。このような時間副詞や助動詞も生じない、動詞の後にアスペクトを表す助詞も付けられていない文（ゼロ形式の文）は、一般的に現在テンス（例えば例文（7）と例文（8））、又は未来テンス（例えば例文（9））を表す。そして、会話文に限られる。

3. 中国語のアスペクト表現

3.1. 先行研究

『言語学大辞典』によると、「アスペクト」という術語を日本語では「体」という伝統的術語で表現し、「動詞の意味するものを、まとまりのある完了したものとして捉えるか否かで完了体と不完了体または未完了体という 2 つの「体」を区別する」。アスペクトを下位分類する時に、大まかに「完了相」と「継続相」に分けることができる。日本語の場合、アスペクトとテンスの緊密性がかかなり高いため、アスペクトを表現する時に常にテンスと関連しながら分類される。日本語のアスペクトマーカ―が常に動詞（「いる」「ある」「要る」「違う」など状態動詞以外）と結び付くことによってアスペクトを表現するため、次の表が作成される（徐建平(1996)参照）。

	過去	非過去
完成相	した	する
継続相	していた	している

表 2

つまり、日本語の場合、アスペクトを基本的に「完了相（＝完成相）」と「継続相」に分けているが、テンスに関わったら、更に「過去」と「非過去」という二つの形を持っている。完了相では「非過去」は未来であるが、「継続相」と習慣を表わす場合は「非過去」が現在と未来を含む。

一方、中国語の場合、動詞の屈折形態がないので、動詞には形態によるテンス的な対立がないが、大まかに分類すると、「完了相」「未完了相」になり、「完了相」の中に更に「経験相」が含まれ、「未完了相」を「進行相」と「継続相」に下位分類することができる。それぞれのマーカ―として、「完了相」は「了」であり、「経験相」は「过」であり、「未完了相」のカテゴリ―になる「継続相」と「進行相」は「着」である。しかし、更に細かく分類している学者もいる。代表的なのは中国語研究の第一人者の呂叔湘である。徐（1996）によると、呂氏がアスペクトを「相」と名づけ、次の九つに分けている。

- ① 方事相：「～着」の形で動作の持続を表す。
- ② 既事相：「～了」の形で動作の完了、事態の変化を表す。
- ③ 起事相：「～起来」の形で動作の始まりを表す。
- ④ 継事相：「～下去」の形で動作の持続を表す。①と違って日本語「～テイク」に近い。
- ⑤ 先事相：「～去」「～来」の形で、動作が行われることを予言する。
- ⑥ 後事相：「～来」「～来着」の形で、動作があったことを表す。
- ⑦ 一事相・多事相：「動詞＋数詞＋量詞」の形で動作が一回又は数回行われたことを表す。
- ⑧ 短事相・嘗試相：「動詞の重ね型」又は「動詞＋一＋動詞」の形で、「とりあえず／ちょっと～する」、又は「～してみる」という意味を表す。
- ⑨ 履発相・反復相：例えば、「说笑」の場合、「说说笑笑」のような動詞「AABB」の形で動作の繰り返しを表す。

呂の分類によれば、「進行相」と「経験相」が扱われていないことになり、不十分のように思われる。

また、木村英樹（1982）では中国語のアスペクトは、「完了」の「了」、「持続」の「着」、「始動」の「起来」、「継続」の「下去」、「終結」の「完」、及び「経験」の「过」という六つの形式に分けられている（木村英樹（1982）の「中国語」『講座日本語学 11——外国語との対照Ⅱ』による）。

- ① 「了」は、動作・作用が話者によって、既に実現・展開し終えて、もはや続行されない、というあり方で把握されたものであることを示す。「了」はまた、動作・作用の完了の結果として存続している状態を指す場合にも用いられる。
- ② 「着」は、動作・作用が既に実現し、しかもまだ実現し終えず、まさに現実の世界（時には眼前）に今立ち現れている状態のままのあり方、言い換えれば持続のままのあり方において捉えられたことを示す、すなわち持続のアスペクトの形式である。
- ③ 始動の「起来 qilai」（～はじめる）と継続の「下去 xiàqu」（～続ける）と終結の「完 wán」（～終わる）は、部分的な各々の時間的段階を切り取って、その部分を新たに一過程として表すのが、始動の「起来」、継続の「下去」そして終結の「完」である。これらは話者の介在なしに存在する内的な動作・作用の過程を表す点において「了／着」よりは客観的である。

- ④ 動作・作用を過去に少なくとも一回経歴したものとして表す、すなわち経験の「过」は、まず意味的には、動作・作用の姿を外側から描くものとも言えそうだが、「了／着」が特定の一時的な已然の動作・作用を描くものに対して、「过」は過去の不特定の一回或いは一回以上の動作・作用を表す。次に、形式上の特徴においては、否定詞は「没有」に限られ、連帯修飾節内に生起可能であり、前接動詞との間に「得／不」の介入を許さないという特徴がある。

木村の分類では「経験相」の項目は立ててあるが、「進行相」については呂(2005)と同様に扱われていない。

しかし、Stephen Matthews and Virginia Yip『広東語文法』(2000)では、中国語の方言である広東語と区別するために、中国語のアスペクトは「完了相」「経験相」「進行相」「持続相」「短時相」に分けられている。中国語アスペクトの分類は学者によって異なるが、細かく分類しすぎると混乱し安い点を考えると、私見では最も適当な分類は「完了相」「経験相」「継続相」「進行相」という四つの形式に分ける分類であるように思われる。以下、四つの相について一つ一つ吟味していくことにする。

3.2. 完了相

中国語の完了相アスペクトマーカ―が「了²⁾」であることについては殆ど異議が見られないが、「了」の用法と分類については学者によって異なる。しかし、アスペクトマーカ―と言えば、いずれの言語でも動詞との緊密性が最も高いものに限られている。例えば、日本語の場合、アスペクトマーカ―が必ず動詞に結び付いてアスペクトを表す。中国語の場合、完了相アスペクトマーカ―と認められるのは常に動詞との関わりが最も深い「了」に限られる。中国語「了」の生起する位置と生起する数量は大体次の例文で示されるようになる。

wǒchī le fàn
(10) 我吃了饭。

私はご飯を食べた。

wǒchī fàn le
(11) 我吃饭了。

私はご飯を食べた。

(12) $w\ddot{o}chilef\grave{a}nle$
我吃了饭了。

私はご飯を食べた。

(13) $w\ddot{o}chile$
我吃了。

私は食べた。

例文 (10) ~ (13) で観察できるように、「了」の生起する位置とえば、文中かつ動詞の直後、文末かつ目的語の直後、文末かつ動詞直後、及び、文中と文末の両方など四種類ある。また、「了」の生起する数量といえば、例文 (10) ~ (13) はいずれも単文³⁾であり、一つ生起する場合と二つ生起する場合がある。

続いて、それぞれの「了」と動詞との緊密性を見てみよう。中国語の語順から言えば、特殊な文型⁴⁾を除き、一般的に「主語+述語+目的語」という順になり、述語動詞に近ければ近いほど述語動詞との緊密性が高いと見られる。従って、例文 (10) ~ (13) に生起する「了」の生起する位置から見れば、述語動詞直後に生起する「了」のほうが述語動詞との緊密性が最も高い。つまり、述語動詞直後に生起する「了」のみアスペクトマーカールと認められる。例文 (12) の「了」が二つ生起する場合について、述語動詞「吃/食べる」の直後に生起する「了」がアスペクトマーカールと見なされれば、文末に生起する「了」はアスペクトマーカールになる可能性が低くなる。というのは、文末に生ずる「了」を使わなくても文のアスペクトには影響にならないためである。更に、この場合の「了」は中国語文法で一般的に語気助詞の「了」と見られ、アスペクトの意味を持たないと見なされている。

要するに、中国語完了相のアスペクトマーカールは文中であれ、文末であれ、述語動詞直後に生起する「了」に限られ、必ず完了相アスペクトの機能を持つと見なして良い。

3.3. 継続相

継続には動作の継続（本稿では進行相と見なし、次節で詳しく考察する）と状態の継続がありうる。継続相と進行相は動詞によって異なる時もある。本稿では状態の継続を継続相と見なして考察することにする。

中国語の継続相アスペクトマーカールといえば、「着」であることについて殆ど議論の余地がない⁵⁾。「着」によって表される状態の継続には一般的に状態の変化は見られない。

(14) ^{héshuǐhuāhuādeliú}着。 / *^{héshuǐhuāhuādeliú}了。

川の水がサラサラと流れている。

(15) ^{ménkāizhe}。 / ^{ménkāile}。

ドアが開いている。

(16) ^{tāhái}着。 / *^{tāhái}了。

彼はまだ生きている。

(17) ^{chuānzhe}衣服。 / *^{chuānle}衣服。

服を着ている。

例文(14)はある自然現象に対する描写であり、長い期間中不変の状態に対する描写であるため、「着」の使用が求められる。例文(15)は発話時における継続状態に対する描写である。「着」が使われないと継続の意味が無くなるため、継続相を表すのに「着」が必要である。例文(16)も例文(15)と同じことが観察される。述語動詞「活／生きる」は元来、状態動詞ではあるが、常に「着」と共起して状態継続を表す。

例文(17)の場合、使われる述語動詞は人間が衣服／装身具を体に付ける動作動詞であるため、「着」が使われなければ、発話時以後の動作を表すようになる。したがって、この場合でも「着」が求められる。しかし、「着」が使われることによって、文に両義性が生じることも見える。即ち、「動作の進行」と「状態の継続」という両義性である。それは「着」が進行相にも使われるためだと考えられる。しかし、この場合、「動作の進行」より「状態の継続」のほうが感じられやすい。

「着」と状態相の意味を更に説明するために、各例文に生じる「着」を完了相アスペクトマーカである「了」に変えてみる。例文で観察されるように、例文(14)、(16)、(17)に生じる「着」を「了」に変えると、非文になるが、例文(15)の「着」を「了」に変えても非文にならない。しかし、例文(15)の意味が変わった。「了」の使用により、「ドアが開いている」という静的な状態に対する描写の意味から、「ドアが開いた」という動的な変化に対する叙述の意味になった。例文(14)、(16)の「着」が「了」に変えられると非文になるのは、使われる動詞は状態動詞であり、更に変化が生じない動詞であるためである。また、例文(17)が非文になるのは、その文だけで不十分であるためである。もし

後続の文があると、例えば「穿了衣服就走/服を着てから出る」になると、問題なく自然な文である。

3.4. 進行相

進行相といえば、一般的に動作の進行を指すので、アクションを表す動詞との関わりが深いと見られる。中国語の場合、進行相を表すのに、助詞（所謂中国語進行相アスペクトマーカ）によって進行の意味を表す。進行の意味を持つ助詞といえば、一般的に「着」が挙げられる。しかし、「着」は継続相アスペクトマーカとしても使われる。継続相アスペクトマーカで使われる「着」と異なるのは、進行相アスペクトマーカの「着」が現在テンス⁶⁾に用いられる副詞「正」「在」「正在」（何れも日本語の「ちょうど～（ところだ）」と相当する）と共起することができ、アクションを表す動詞の直後に生じるという点である。

次の例文を見ながら、進行相で使われる「着」を見てみよう。

tāzui li zhèngzài jiáozhēyī dàkuài ròu
(18) 他嘴里(正 在)嚼着一大块肉。

彼は（ちょうど）一枚の大きな肉を噛んでいる（ところだ）。

yǒurén zài qiāozhēchuāng
(19) 有人(在)敲着窗。

誰かが（ちょうど）窓を叩いている（ところだ）。

wǒzhèngchuānzhe yī fu
(20) 我 正 穿 着衣服。

私は（ちょうど）服を着ているところだ。

例文(18)～(20)はすべて発話時における進行している動作を表す文である。が、例文(18)と(19)で用いられている動詞「嚼／噛む」と「敲／叩く」は完全なアクションを表す動詞であるのに対し、例文(20)で用いられている動詞「穿／着る」はアクションを表す動詞として捉えられるし、状態を表す動詞として捉えることも可能である。アクション動詞が使われれば、現在テンスを表す副詞「正」「在」「正在」などが生起しなくても「着」1つで進行の意味が表せるが、例文(20)のように状態を表すこともできる動詞であれば、「正」「在」「正在」など副詞が必要になる。例えば、例文(20)の場合、「正」がなければ、「私は服を着ているところだ」と「私は服を着ている(状態だ)」との両義になる。前節で述べたように、「着」の両義性が生じる場合は、基本的に人間が衣服／装身具

を体に付ける動作動詞の直後に生じる「着」に限られる。

しかし、発話時においてある永続的ではない状態が目下続いていることを表す時、現在テンスの副詞「正」「在」「正在」が「着」と共起することもしばしば見られる。

wàimiànzhèngzài xiàzheyǔ
(21) 外 面 正 在 下 着 雨。

外は雨が降っている。

shìjièshàngháiyǒu hěnduō rén zài tòngkǔ de huó zhe
(22) 世 界 上 还 有 很 多 人 在 痛 苦 的 活 着。

この世ではたくさんの人が苦しみながら生きている。

tāzhèngshēng zhe wǒ de qì
(23) 他 正 生 着 我 的 气。

彼は私に怒っている。

例文 (21) ~ (23) で使われている「着」が副詞「正」「在」「正在」などと共起しても、述語動詞は状態を表す動詞であるため、進行相として捉えにくいと思われる。

従って、現在テンスを表す副詞が文に生起するにも関わらず、述語動詞がアクションを表す動詞であれば、「着」が進行相アスペクトマーカと認められるが、述語動詞が状態を表す動詞であれば、「着」が継続相アスペクトマーカとして認められると結論づけてよいであろう。しかし、人間が衣服／装身具を体に付ける動詞は例外である。また、従属節がない限り、進行相の「着」は一般的に発話者が目の前に進行していることを報告する時にのみ使われる。即ち、次の例文では「正在」などを使うかどうかに関わらず「着」が使えない。

gāngcái wǒ zhèng zài qiāozhēmén
(24) * 刚 才 我 正 在 敲 着 门。

* さっき私はドアを叩いているところだった。

míngtiān xiàwǔ diǎnwǒ zài dǎ zhè lánqiú
(25) * 明 天 下 午 6 点 我 在 打 着 篮 球。

* 明日の午後6時に私はバスケットボールをしているところだ。

zuótiān xiàwǔ tā zài shuā zhe qiáng
(26) * 昨 天 下 午 他 在 刷 着 墙。

* 昨日の午後彼は壁を塗っているところだった。

しかし、例文 (24) ~ (26) の場合、「着」を取れば正しい表現になる。

(24) gāngcái wǒ zhèng zài qī mén.
剛才我正在敲门。

さっき私はドアを叩いていた。

(25) míngtiān xiàwǔ 6 diǎn wǒ zài dǎ lán qiú.
明天下午6点我在打篮球。

?明日の午後6時に私はバスケットボールをしている。

(26) zuótiān xiàwǔ tā zài shuā qiáng.
昨天下午他在刷墙。

昨日の午後彼は壁を塗っていた。

このことも「着」が発話時における目の前に進行していることについての発話にのみ使われるという点を証明している。

3.5. 経験相

中国語経験相のAspectマーカーは「过」であり、動詞と目的語の間に生起する。「过」自体には本動詞の働きとAspectマーカーの働きがある。まず、その違いを明らかにしておく。

「过」の機能についてみると、本動詞の働きをする「过」は「guò」と発音され、基本的意味は「通る」、「過ぎる」、「経つ」、「洗い直す」などであり、すべてのAspectマーカーを後続させることができる。例えば、

(27) guò le zhè tiáo jiē jiù dào le.
过了这条街就到了。

この道を通ったらすぐ着くよ。

(28) yé ye zhèng guò zhe xìng fú de wǎn nián shēng huó.
爷爷正过着幸福的晚年生活。

おじいさんは幸せな晩年を送っている。

(29) zhè jiàn yī fú yǐ jīng guò guò hǎo jǐ biàn le.
这件衣服已经过过好几遍了。

この洋服はもう何回も洗い直したよ。

などの例では「过」が本動詞として使われている。例文 (27) の「过」の直後に完了相のAspectマーカー「了」がつけられ、完了 (相対的完了⁷⁾) を表す。例文 (28) の「过」

の直後に継続相のアスペクトマーカ―「着」をつけて状態の継続を表す。例文 (29) の「过」の直後に更に「过」がつけられているが、2つ目の「过」は「guo」と発音され、完了の意味で使われているため、「过 (guò) + 过 (guo)」の形で完了を表す。

「过」は経験相のアスペクトマーカ―である場合、文に他の本動詞が必ず生じることが要求され、「了」と共起することができる⁸⁾が、この「了」は省略可能である。しかし、完了の意味を表す時にも「过」の使用がしばしば見られる。例えば、例文 (29) で観察される2番目の「过」は完了の意味の「过」であり、次のような例文で使われる「过」も完了の意味を表す「过」であると見られやすい。

chīguòfàn zài qù ba
(30) 吃过饭再去吧。

ご飯を食べてから行こう。

nǐ wèn guò tā le ma
(31) 你问过他了吗？

彼に聞いた？

例文 (29) に生起する2つ目の「过」と例文 (30) (31) で使われる「过」はすべて「了」に変えられることができ、意味の違いが生じない。

しかし、次のような例文の場合であれば、「过」は経験の意味を表す。

zhè běn shū wǒ kàn guò
(32) 这本书我看过。

この本を読んだことがある。

wǒ céng jīng qù guò běi jīng
(33) 我曾经去过北京。

北京にかつて行ったことがある。

即ち、同じく助詞の役割を担当する「过」には完了の意を表す「过」⁹⁾と経験相アスペクトマーカ―の働きをする「过」がある。経験相と完了相の使い分けはむしろ日本語の方が区別が明確である。つまり、日本語経験表現の「シタコトガアル」は木村 (1982) が述べるように不特定時間指示にしか用いられず、中国語に訳す場合、すべて「動詞+过」に訳す。それに対し、日本語完了表現の「シタ」を用いる「特定時表現」の場合にも「过」が用いられることができ、これを完了相の「过」と呼んだ。中国語に訳す場合、「过」か「了」になる¹⁰⁾。しかし、木村 (1982) は経験相の「过」について、「「过」は過去の不特定の一回或いは一回以上の動作・作用を表す」と述べているが、必ずしもそうではない。

(34) 1976 年 唐山 发生 过 大地震。

1976 年に唐山に大きな地震があった。

(35) 前 天 我 给他 打过 电话。

一昨日彼に電話した。

例文 (34) と (35) も経験を表す文である。その理由を述べる前に、まず「経験相」の「过」と「完了相」の「过」の否定形式を見てみよう。完了の「过」と経験の「过」の否定形式は完全に異なる。

(36) 吃过 饭了。 → 还 没 吃 饭。(完了)

ご飯を食べた。 → まだご飯を食べていない。

(37) 吃过 日本 菜。 → 没 吃 过 日本 菜。(経験)

日本料理を食べたことがある。 → 日本料理を食べたことがない。

「経験相」の「过」も「完了相」の「过」も否定形式になる時、文には必ず否定副詞の「没/没有」が生起し、「不」が使われない。また、完了の「过」の否定形式には「还」が常に生じるが、経験の「过」の否定形式には「还」が一般的に生じない上、「没/没有～过」の形になる。

そこで、例文 (34) と (35) で使われている「过」が経験相の「过」であるかどうかを判定するために、それらの否定形式の文に完了相の「过」のように「还」が生じるか、もし「没/没有～过」の形になるかを確かめる。

(34') a. *1976 年 唐山 还 没 发生 大地震。

b. 1976 年 唐山 没 发生 过 大地震。

(35') a. *前 天 我 还 没 给他 打 电话。

b. 前 天 我 没 给他 打 过 电话。

例文 (34') と (35') の a は「还」を用いる否定形式の文であるが、どちらも非文にな

る。しかし、bの方は「没/没有～过」を用いる否定形式の文であり、問題なく自然な否定文になる。従って、例文(34)と(35)のように、過去の特定の一回の動作・作用などを表す時も経験相の「过」であるとみなすことができる。

また、経験相の「过」の場合、例文(33)のように文に副詞「曾经／かつて」が共起できるが、完了を表す「过」であれば、副詞「曾经／かつて」が共起しない。

4.終わりに

本稿は中国語のテンスとアスペクト表現について概観し、中国語テンスとアスペクト表現における諸問題についても触れた。

中国語は「文法化されたテンスのない言語」であるため、テンスを表すのに時間副詞や、助動詞、助詞などに頼るしかない。本稿はそれらについて簡単にまとめた。また、会話では時間副詞や助動詞などテンスを表すものも、アスペクトを表すものも現れない(所謂ゼロ形式)文もあるが、一般的に現在テンス又は未来テンスに限られていることが明らかになった。

中国語のアスペクトについて、本稿では4つの相、「完了相」「継続相」「進行相」「経験相」に分けて、それぞれの相に使われるアスペクトマーカ―を考察した。「完了相」では「了」が使われ、「継続相」と「進行相」では「着」が使われ、「経験相」では「过」が使われることに對し更に考察し、新しい発見があった。まず、「進行相」の「着」は基本的に発話時における目の前に進行していることについての発話にのみ使われることである。次に、「経験相」の「过」には完了の意味で使われる時もあるが、経験の意味で使われる時、必ずしも「過去の不特定の一回或いは一回以上の動作・作用を表す」のではなく、過去の特定の一回又は一回以上の動作・作用を表す時にも用いられる。

しかし、本稿では、中国語のゼロ形式の文、及び完了の意味で使われる「过」について、簡単に触れたが、詳しく考察していないため、その諸問題は更に考察する価値があると考え、今後の研究課題としたい。

注

- 1) 工藤(1982)に使われている「ダイクティック」という用語は、英語の「**deictic**」という形容詞であり、「(代名詞・定冠詞が) 直示的な、指示的な」という意味である。
- 2) 「了」にはアスペクトマーカの「了」と本動詞の「了」がある。アスペクトマーカの「了」であれば、発音は「le」であり、本稿の研究対象になるが、本動詞の「了」であれば、発音は「liǎo」になり、意味は「済ませる、解決する」などである。
- 3) 単文というのは、主語と述語の関係を一組だけ含む文である。単文に対し、複文がある。複文は、主節の一部に従属節が含まれている文、即ち、主節と従属節から成る文を指す。
- 4) 中国語における特殊な文型とえば、「把」構文(“把”字句)、目的語前置文(倒装句)、兼語文(兼語句)などがある。これらの文型の語順は一般的な中国語文とは異なる。例えば、「把」構文の語順は「主語+把+目的語+述語」であり、目的語前置文の語順は「目的語+主語+述語」であり、兼語文の語順は「前節の主語+前節の述語+前節の目的語かつ後節の主語+後節の述語+後節の目的語」である。
- 5) 「着」も本動詞の働きを持つ。発音は「zhuó」であり、意味は「着る、つく、付着する、つける」などである。
- 6) ここで言う現在テンスは「絶対的現在テンス」と「相対的現在テンス」を含んでいる。
- 7) 工藤真由美氏の「絶対的テンス」と「相対的テンス」の分け方を参考し、中国語アスペクトも「絶対的アスペクト」と「相対的アスペクト」に分けてもよいと考え、完了相を「絶対的完了」と「相対的完了」に分けた。
- 8) 経験相アスペクトマーカの「过」と共起する「了」は語気助詞の働きをする「了」と思われる。というのは、この場合の「了」が省略されうるためである。一般的にアスペクトマーカの働きをするものは省略されないと考えられる。
- 9) もし「过」にも完了の意味があれば、完了相のアスペクトマーカとして見なされてもよいようであるが、この点については更に検討する必要があると思われる。
- 10) 日本語の完了表現である「シタ」を中国語に訳す場合、「过」と「了」以外に、「着」になる場合もあるが、それについては今後の課題にしたい。

参照文献

- 亀井孝・河野六郎・千野栄一（1996）『言語学大辞典——第6巻術語編』, 三省堂
- 木村英樹（1982）「中国語」, 『講座日本語学 11——外国語との対照Ⅱ』, 明治書院
- 工藤真由美(2002)『アスペクト・テンス体系とテキスト——現代日本語の時間の表現——』,
ひつじ書房
- 吕叔湘主編(2005)『現代汉语八百词』, 商务印书馆
(2004)『吕叔湘文集第一卷中国文法要略』, 商务印书馆
- Stephen Matthews and Virginia Yip (1994).Cantonese:A Comprehensive Grammar, Routledge
(千島英一・片岡新 訳 2000 『広東語文法』, 東方書店)
- 王忻(1996) 「アスペクト表現の日中対照——シテアルほかの表現をめぐって——」,pp.65-71.『国文学解釈と鑑賞』
- 徐建平(1996) 「アスペクトの日中対照研究——完成相「スル」と持続相「シテイル」を例に——」,pp.58-64.『国文学解釈と鑑賞』